

高等学校 令和6年度(3学年用) 教科 地理歴史 科目 発展日本史

教科: 地理歴史 科目: 発展日本史 単位数: 6 単位

対象学年組: 第3学年 1組～6組 選択者

使用教科書 (詳説「世界史探究」山川出版社)

教科 教科 地理歴史 の目標: 社会的現象の歴史的新見方・考え方を働かせ、課題を追及し解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の優位な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史に関する意義、特色や相互の関連を考察したり、社会の課題の解決に向け構想や説明する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史に関する事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準		知	思	態	配当 時数	
			知識	思考					態度
1 学期	律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。	第3章 律令国家の形成 1 律令国家への道 2 飛鳥の朝廷 3 平城京の時代 4 律令国家の文化 5 律令国家の変容	隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解している。	文献資料をもとに、藤原氏を中核とする政治抗争の進展と皇田永年私財法にみられる土地制度の変容を関連づけて考察し、根拠を示して表現している。	隋・唐などの中国王朝から導入された文化を考察し、政治や社会の動きとのつながりを見出そうとしている。	○	○	○	10
	藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。	第4章 貴族政治の展開 1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士	藤原北家が権力を掌握していく過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。	国際関係の変化や遣唐使の廃止などを踏まえ、かな文学の成立による国文学の発達などに着目して、貴族の生活・文化の特色を考察し、表現している。	国司の在り方や徴税方式の変化、武士の出現など、地方の豪族や武力をもった勢力の動向が政治・社会に与えた影響を明らかにしようとしている。	○	○	○	12
	外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。	第5章 院政と武士の躍進 1 院政の始まり 2 院政と平氏政権	貴族政治や土地制度の変容などをもとに、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。	武家政権の権力基盤となる武士の土地所有に至る変化を考察し、歴史における土地の支配や所有がもつ意味について多面的・多角的に考察し、表現している。	中世社会の特色について多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを表現し、追究しようとしている。	○	○	○	10
	鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。	第6章 武家政権の成立 1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会 3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化	鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。	諸資料から情報を読み取り、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。	武家政権の権力基盤となる武士の土地所有に至る変化を考察し、歴史における土地の支配や所有がもつ意味について多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	12
	南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。	第7章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場	南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。	壁画や粘土板などの資料をもとに、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し表現している。	室町時代に成立した村の自治的な運営が現代に、自然環境と生活や文化とのつながりに異なるとは異なるかなど、自身との関わりにおいて課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	12
	大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。	第8章 近世の幕開け 1 織豊政権 2 桃山文化	村藩や都市の支配の変化、を読み取り、織豊政権の特色や貿易・対外関係について理解している。	織豊政権の諸政策の目的や、ヨーロッパ諸国の進出がアジアに与えた影響などについて多面的・多角的に考察し、表現している。	近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現しようとしている。	○	○	○	12
	政治や文化の中心であった中世の京都を描いた絵画作品から、情報を収集して読み取る技能を身につける。	絵画から中世社会を探る	『年中行事絵巻』『一遍上人絵伝』『洛中洛外図屏風』を比較して、様々な情報を適切かつ効果的に調べとめとめている。	複数の絵画資料に描かれている中世の都大路の様子を比較した結果について、時代を通観する問いを踏まえて考察し、仮説を表現している。	中世の京都を描いた絵画資料から得られる情報をもとに、中世社会の特色について主体的に課題を見出そうとしている。	○	○	○	10
	江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。	第9章 幕藩体制の成立と展開 1 幕藩体制の成立 2 幕藩社会の構造 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化 □	アジアの国際情勢の変化などに着目して、江戸幕府の法や制度の確立や対外政策の推移について理解している。	織豊政権と幕府の支配の構造の相違点や、江戸幕府による貿易統制の意義について多面的・多角的に考察し、表現している。	幕藩体制が確立する過程における様々な画期について考察し、主体的に追究しようとしている。	○	○	○	12
幕府や藩の支配に対しておこなわれた百姓一揆や、都市の打ちこわしの実態について理解する。	第10章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 生野・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化	幕府・諸藩の経済的弱さ、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに関する諸資料から情報を読み取り、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について理解している。	幕藩体制の動揺と文化の展開との関連性について、諸資料から読み取れる情報をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。	飢饉や一揆への対応、外交政策の転換などについて、幕府や諸藩の課題を見出し、主体的に追究しようとしている。	○	○	○	12	
国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、日本の開国を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。	第11章 近世から近代へ 1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府の発足 □	欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯などを理解している。	日本が直面していた国内外における諸課題を踏まえ、政治や経済などの諸側面の変化などを多面的・多角的に考察し、表現している。	幕末の政治動乱の過程を多角的に考察することを通じて、近代の学習へのつながりを主体的に見出そうとしている。	○	○	○	10	
明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、政治的変革と国家的統一過程を理解する。	第12章 近代国家の成立 1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立	明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について、諸資料から情報を読み取っている。	諸制度の改革が地域社会にもたらした変化や諸外国と結んだ条約の相互比較、欧米の思想・文化の影響などを多面的・多角的に考察し、表現している。	自由民権運動の展開過程を考察したうえで、日本における立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	10	
東アジアをめぐる国際環境が変容する中、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争等に至る経緯について理解する。	第13章 近代国家の展開 1 日清・日露戦争と国際関係 2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制	第一次世界大戦が日本に及ぼした影響に着目して、大戦後の国際的な協調体制における日本の立場や対外政策の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。	大戦後に国民の権利の拡大がもたらされたことを踏まえ、国際的な反戦意識や国際的な民族運動の高揚について多面的・多角的に考察し、表現している。	東アジア・太平洋地域における国際協調体制の特質を考察することを通じて、当時の日本外交に与えた影響やその課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	12	
日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解する。	第14章 近代の産業と生活 1 近代産業の発展 2 近代文化の発達 3 市民生活の変容と大衆文化	産業の発達の背景と影響などに着目し、諸資料から産業革命の展開について適切に情報を読み取り、地域社会における労働や生活の変化が社会問題を生み出したことを理解している。	地域社会の変化などを踏まえて産業全般の変化がもたらされたことや、労働問題や公害問題の発生について多面的・多角的に考察し、表現している。	明治期の文化に関わる政府と国民の動向を考察することを通じて、明治文化の特色を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	10	

2 学期	第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。	第15章 恐慌と第二次世界大戦 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦	戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、戦争の長期化と欧米諸国との外交関係に関わる諸資料から情報を読み取り、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。	戦争がアメリカやイギリスなどとの戦争に拡大した理由や、日本における全体主義的な国家体制の進展について多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。	日中戦争から太平洋戦争に至る過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究しようとしている。	○	○	○	12
	戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれともなう諸改革について、その経過と内容を理解する。	第16章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和	第二次大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革について理解している。	戦後の諸改革が連合国の対日占領政策にもとづくとともに、戦争に対する日本国民の反省に支えられつつ実施されたことについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	現代の日本との関係性を踏まえながら、占領期における諸改革が生み出した成果と課題について、主体的に追究しようとしている。	○	○	○	10
	独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。	第17章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度経済成長へ □	保守合同による自由民主党の成立から、経済成長を背景とする安定した保守政権の誕生に至る経緯について諸資料から情報を読み取り、外交・政治・経済を踏まえて理解している。	日ソ共同宣言をはじめとする国交交渉と国際連合への加盟、新安保条約・L T貿易・日韓基本条約・沖繩返還問題などの外交事案がもたらした課題を多面的・多角的に考察し、表現している。	55年体制の歴史的意義や、1960年代における保守政権の安定化を考察することを通じて、独立後の国内政治について主体的に課題を見出そうとしている。	○	○	○	10
	高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、2度にわたる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。	第18章 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の変容 □	ドル＝ショックや石油危機による世界経済の混乱に対応するため主要先進国首脳会議が開かれる一方、日本は石油危機を乗り越えて経済大国となったことを理解している。	日本が石油危機を乗り越えて経済大国となった要因について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。	冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、自ら課題を見出して主体的に追究しようとしている。	○	○	○	10
3 学期	国公立や難関私大の過去問などを演習する。	演習問題	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	○	○	○	24
合計									210